

「医師・鍼灸師を対象にした鍼灸に関するアンケート(経穴の使用頻度)」 ご協力をお願い

一般社団法人日本東洋医学会 鍼灸学術委員会

【はじめに】

この説明文書は「医師・鍼灸師を対象にした鍼灸に関するアンケート」へのご協力をお願いするものです。この説明文書をよくお読みいただき、本研究の主旨をご理解の上、調査にご協力をお願いします。本研究は、日本東洋医学会鍼灸学術委員会の事業として行い、研究代表者である篠原昭二の所属施設である九州看護福祉大学の倫理審査委員会の審査を受け実施するものです。

【目的と意義】

鍼灸学術委員会では、医師に対する鍼灸啓発を事業計画の中心とし、毎年学術総会開催時に準備委員会と協働し、医師のための鍼灸実技セミナーや鍼灸シンポジウムなどを企画・実施しております。

湯液と鍼灸は漢方医学の両輪であるため、医療現場においては内科的療法である漢方薬治療と物理的療法としての鍼灸をうまく組み合わせていく必要があります。本研究では、鍼灸に対する医師・鍼灸師会員の皆様のご理解、治療手段としての鍼灸の使用などについての現状を把握するとともに、今後の鍼灸学術委員会の活動に生かしていくためにアンケートをお願いしたいと存じます。

また、11年前の2008年5月にWHOにより経穴位置が標準化されましたが、わが国の日常臨床における経穴の使用頻度に関しては、未だ詳細なデータがないのが実情です。そこで、日頃鍼灸を活用しておられる皆様に経穴の使用頻度について調査を行いたいと考えています。

【方法】

1. アンケート対象者

日本東洋医学会会員または第70回学術総会に参加された医師及び鍼灸師

2. 回答方法

オンラインアンケートです。回答に要する時間は35分程度です。最初のアンケート画面の□に承諾の旨の✓をしていただき、以降の質問にご回答下さい。アンケートは無記名ですので、お名前は記載しないで下さい。パソコン(URL)、スマートフォン(QRコード)いずれからも回答いただけますが、スマートフォンの場合は以下のQRコードからお入り下さい。

アンケート1



アンケート2鍼



アンケート2灸



【研究期間】

アンケートの回答期限は2019年9月末とします。回収されたアンケートは研究代表者の篠原昭二のもとで集計・解析し保管します。

【予想される利益】

現在日本では、経穴361穴および経外奇穴32穴が教育されていますが、その臨床的な使用頻度や重要性等に関する検討は、一部の臨床家が喧伝しているのみで、ほとんど明らかにされていません。今回の研究で初めて明らかになると考えられます。

【研究への参加は任意です】

本研究への参加は任意で、ご協力いただけない場合も何の不利益もありません。

【本研究の結果の公開】

本研究の結果については本学会の学会誌及び他の鍼灸関係の学会で報告する予定です。

【個人情報の取り扱い】

無記名アンケートですので、個人情報は収集しません。研究者には個人を特定できません。

【情報の保管】

本研究の成果を発表後5年間適切に保管し、その後復元できないように破棄します。

【研究の資金源と利益相反】

本研究は、日本東洋医学会鍼灸学術委員会の研究費で実施します。本研究の実施や報告に当たって利益相反はありません。

<事業組織>

日本東洋医学会鍼灸学術委員会

<研究代表者及び事務局>

日本東洋医学会鍼灸学術委員会委員長、九州看護福祉大学教授 篠原昭二

<問い合わせ先>

〒865-0062 熊本県玉名市富尾 888 番地

九州看護福祉大学 篠原昭二

TEL.0968-75-1800 FAX.0968-75-1811

E-mail: keiraku.research@gmail.com